

海辺環境を取り入れた病院の建築計画に関する研究 A study on Architectural Planning of Hospital Incorporating Coastal Environments

○吉沢葉七¹ 江川香奈²

Hana Yoshizawa, Kana Kana Egawa

Abstract: This study investigates how coastal environments are reflected in hospital architecture and how they may affect patients and medical staff. Ten hospitals published in Kindai Kenchiku between 2011 and 2024 were selected based on visual or textual references to the sea. Results showed that 90% were located within 1 km of the ocean, and 60% included disaster prevention designs. All hospitals had dayrooms, and 70% had patient rooms facing the sea. In 90% of the cases, staff facilities were enhanced, with some offering spaces with ocean views. However, design elements for rehabilitation and families were observed in only 30–40%. Further study is needed to examine the psychological effects of such environments.

1. はじめに

日本の人口は近年減少局面を迎えており、2070年には、総人口が9,000万人を割り込み、高齢化率は39%の水準になると推計されている。このように高齢化が進む中で、医療・福祉施設の需要はますます増加しており、高齢者が最後まで安らぎを感じながら暮らせる環境づくりが求められている。また、病室の窓から見える景色が患者の快・深い感情に与える影響という先行研究がある^[1]。当研究では、人々は良い景色を眺めることにより、心が癒され穏やかな気持ちにされるといわれている。つまり、病室の開口部から見える景色は自然治癒力を高めると同時に、患者の心の変化にも影響していると考えられている。実験結果を見ると、快感情の時に外の窓を眺めることは、良い気分を抱き、今ある自分よりもっとよい状況へ持っていかうとする気持ちの高揚が感じられるとされている。このことから、快感情時に外の景色を眺めることは患者の気分が良い影響をもたらしていると考えられる。

そこで、本研究では、海辺という景観上、恵まれた場所の付近に立地する病院が利用者および職員を考慮し、どのような設計を行っているのかを調査し、その概要を把握する。

2. 研究目的

海辺環境を取り入れた病院建築の具体的な事例を収集・分析し、海という自然環境が病院にどのように組み込まれているのかを明らかにすることを目的とする。とくに、建築設計の専門誌である「近代建築」に掲載さ

れた病院建築を対象に調査を行い、実際に海が設計にどのように関与しているのか、視覚的・記述的情報の両面から検討する。本研究の最終目的は、海辺環境の視覚特性が病院に与える役割を明確にすることである。特に、リラックス効果にとどまらず、海辺の環境がもたらす他のプラスの影響についても分析し、高齢者や職員にとってどのような役割を果たすのかを探ることを目的としている。この研究を通じて、海辺に立地する病院の建築設計時に検討が必要な内容を考察する。

3. 研究方法

「近代建築」誌の2011年11月号から2024年11月号までを対象とし、各号に掲載された病院建築の事例を精査した。調査対象とする病院は、記事中に海の写真が掲載されている、または解説文中に「海」「海辺」など海に関する言及があるという条件をいずれか満たす事例を抽出し、Table.1に示す情報を整理・記録した。

Table.1 Selection criteria

1. 海までの距離 (1km未満)	6. 歴史性・地域性への配慮 (材料・意匠)
2. リハビリ施設からの海の眺望	7. 屋上やテラス空間の活用
3. デイルームまたは食堂の設置	8. 植栽やランドスケープの工夫
4. 病室に海が面している	9. 災害対応設計 (津波、高潮、地震対策)
5. 職員向けの施設の充実 (休憩室・談話室)	10. 家族のための配慮

Table.2 Presence or absence of design elements in each case

病院名	ロケーション 海が見える(1 km未満)	リハビリ施設 の眺望	デイルームの 設置	病室に海が面 している	職員向け施設 の充実	歴史性・地域 性の配慮	屋上・テラス	植栽ランドス ケープ	災害対応設計	家族のための 配慮
A病院	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○
B病院	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×
C病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×
D病院	○	×	○	○	×	○	×	×	○	○
E病院	○	×	○	×	○	○	×	×	○	×
F病院	○	×	○	×	○	○	○	×	×	×
G病院	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
H病院	○	×	○	○	○	○	×	×	○	×
I病院	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×
J病院	○	×	○	×	○	○	×	○	○	×
○の割合	90.0%	40.0%	100.0%	70.0%	90.0%	90.0%	50.0%	40.0%	60.0%	30.0%

4. 結果・考察

本調査では,2011年から2024年11月号の「近代建築」に掲載された病院のうち,海に関連する条件を満たす10件の事例を抽出・分析対象とした.それらの病院に共通して見られた特徴や傾向をまとめた. Table.2は,各事例における設計要素の有無を有を○、無を×で示した表である.

結果から,以下のような傾向が明らかとなった.対象となった病院のうち,海までの距離が1km未満の施設が90%を占め,海との物理的近接性が高いことがわかった.そのため,津波や高潮など海に起因する災害を想定した設計が60%の病院で行われており,災害対応への配慮が比較的高い割合でなされていた.

また,デイルームの設置率は100%である.さらに,病室が海に面している割合は70%に達し,個室・多床室を問わず,眺望を重視した計画が多く見られた.たとえばA病院では,海の見える病室が設けられており,患者が食事の際に海の方を向くなど風景との関係性が日常的に意識されている.加えて,職員向け施設が充実している病院は90%に及び,海を一望できるスタッフ用食堂を有する施設もあった.勤務の合間に海を眺められることが,医療従事者の心身のリフレッシュにつながっているとの声も紹介されており,患者のみならず職員にとっても癒しとなる空間づくりが意識されている.一方で,リハビリ施設からの海の眺望(40%),植栽ランドスケープの工夫(40%),家族のための配慮(30%)といった要素はやや低い割合にとどまった.しかし,屋上をリハビリゾーンとして活用し,海を望みながら活

動できるよう設計された病院や,夏に屋上イベントを行う病院(G病院)も見られた.これらの取り組みは,療養生活に季節感や開放感をもたらし,患者や地域に新たな価値を創出する点で特筆に値する.

5. まとめ

医療施設において,自然環境は患者や医療従事者の精神状態に大きな影響を与えられる.特に海辺などの自然要素は,心理的な安心感やリラックス効果をもたらすとされており,治療環境の質を高める一因となっている.実際に調査を行った海辺に立地する医療施設では,その環境特性を生かした工夫が数多く見られた.例えば,屋上やデイルームを海辺に面している場所に設けるなど,患者にとっても家族にとってもリフレッシュの場となっている.これは「病気を治す場」としての医療施設から,「心と身体の両方を整える場」への転換の一例ともいえる.また,高齢化や長期療養者の増加といった社会背景を踏まえると,自然環境を取り込んだ空間の重要性は今後さらに高まると予想される.今後は海辺の景観が患者等に具体的にどのような影響を与えているのかを検証する予定である.

6. 参考文献

[1]川静子.保里恭子.平崎弘美.石絹子.西田美和子.石田みどり.塚原節子: 病室の窓から見える景色が患者の快・不快感情に与える影響, 日本看護研究学会雑誌, 2000年23巻3号, p180, 2000
[2]近代建築 LiNKBOOKs
2011年,2012年,2017年,2018年,2019年,2020年,2021年,2022年, http://www.linkbooks.jp/category/cate_01.html